

文化庁メディア芸術祭受賞作品発表！

自然、環境、歴史、身体などを題材にしたスケールの大きな作品が受賞

文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会)は、第13回文化庁メディア芸術祭の受賞作品24点、功労賞1名、特別功労賞1名を決定しました。

本年度は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門に、世界54ヶ国・地域から過去最多となる2,592作品の応募がありました。

“メディア芸術”は、テクノロジーやメディアの進化、社会環境によって変化し続けている分野ですが、本年度は「自然と人間の関係」や、「歴史の中における人間性」、「メディアと身体性」などをテーマにしたスケールの大きな作品が選ばれています。

アート部門大賞は、成長する植物をレーザーで測定し、リアルタイムに複製していく動的インスタレーション『growth modeling device』。エンターテインメント部門は、人と人との繋がる気持ちを表現したミュージックビデオ『日々の音色』。アニメーション部門は、日本の片田舎と近未来の仮想空間を舞台に、人間が最も大切にすべきものは何かを問いかける劇場公開作品『サマーウォーズ』。マンガ部門は、11世紀初頭の北欧を舞台に繰り広げられる海賊たちを描いた歴史マンガ『ヴィンランド・サガ』です。

なお、功労賞には、『スーパーマリオブラザーズ』や『ゼルダの伝説』など、ゲーム史に残る数多くの作品を手がけた宮本茂(みやもと しげる)氏が選ばれました。また、アニメーターとして多彩なアニメーション表現を開拓した金田伊功(かなだ よしのり)氏(2009年7月21日没)に特別功労賞が贈られることとなりました。

贈呈式は2月2日、受賞作品展やシンポジウム等は、2月3日から14日まで国立新美術館にて開催する予定です。

平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭 開催概要

会期	2010年2月3日(水)～2月14日(日) *9日(火)休館 10:00～18:00 金曜は20:00(入館は閉館の30分前)
会場	国立新美術館 企画展示室2E(東京・六本木)
観覧料	無料
URL	http://plaza.bunka.go.jp/
主催	文化庁メディア芸術祭実行委員会 (文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会)
お問合せ	CG-ARTS 協会内「文化庁メディア芸術祭事務局」 フリーダイヤル0120-454-536 http://plaza.bunka.go.jp/q/



*プレス向け内覧会は2月2日(火)15:00から、贈呈式は同日18:00からを予定。

*大賞作品の画像はCG-ARTS協会のプレスリリース掲載ページからダウンロードいただけます。<http://www.cgarts.or.jp/outline/press/2009/091203.html> その他受賞作品の画像をご掲載希望の場合は、ご連絡ください。

この件に関する問合せ先

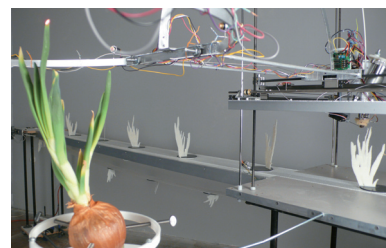
CG-ARTS 協会 広報 篠原・千葉 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 URL <http://plaza.bunka.go.jp/q/>
広報分室 友野・安藤(プランデックス・ジャパン) TEL 03-3564-2361 FAX 03-3564-5238

大賞贈賞理由

アート部門大賞『growth modeling device』デイヴィッド ボーエン

18世紀以来、芸術表現はまず時間芸術か空間芸術かで弁別され、それぞれのメディアの特質によってジャンル区分されてきたが、20世紀になると時間や空間という客観的尺度こそメディアによって組織された人間的事実にすぎないことが自覚されるようになった（ここが20世紀の思想と芸術の出発点である）。これを継承し、現在メディアアートと呼ばれるものの重要な可能性は、時間と空間の再組織、定義にこそ関わる。

デイヴィッド ボーエンの『growth modeling device』は成長するタマネギを一日ごとに立体像として複製する機械だが、本来 generation とは時間的持続から空間的分裂（複数化）への置き換えを意味していた（時間は空間的分裂が導く一つの解に他ならない）。時間の形象化は彫刻や映像という表現メディア史を貫く理論的核心でもあった。この作品に示されているのは時空間の生成装置としてのメディアへの深い洞察である。



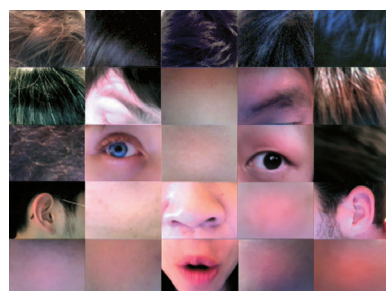
©David Bowen

エンターテインメント部門大賞『日々の音色』 ナカムラ マギコ / 中村 将良 / 川村 真司 / ハルカークランド

個々のグリッド内の映像は、Webカメラを使用した無編集の素人投稿映像のようだ。だが、それはリアリティを演出する作者の意図だ。見ている人はそれに騙され、いつものYouTubeの映像を見る気分になる。そこでグリッド間のインタラクションが発生したり、グリッドを越えて映像が移動するものだから、びっくりし次の展開に引き付けられる。

すべては計算された演出によるものだが、その演出を実現するためのプランニングが素晴らしい。各グリッドの映像がプラン通りになるように事前に緻密かつ膨大な準備をし、映像を収録するという作業を繰り返したはずだ。Webカメラの映像をただ集めただけに見えるという所が、この作品の完成度の高さを表している。

さらに、グリッドを越えWebを越えて触れ合う人々という演出テーマが、曲のテーマと重なりあっている。映像作品として素晴らしいだけでなく、ミュージックビデオ本来の目的も達成されている。作者のプロとしての力量の高さが示された作品だ。



©2009 Zealot Co.,Ltd / Neutral Nine Records

アニメーション部門大賞『サマーウォーズ』 細田 守

実に欲張りな作品である。一般的に作家が欲しいと思う要素は製作の過程で摩耗していく。理想と現実とがせめぎあった結果、欲しかった物の多くは消失し、僅かに残ったとしても変質の憂き目に遭うのだ。その現実に対抗する術といえば欲しい要素を増やす以外にはない。

本作も西の市の熊手のような満艦飾のメインビジュアル同様の常識的な物量を凌駕する要素で過剰に彩られている。しかし、それらはすべて相互作用と緻密な計算に基づいて一つの無駄もない。地方都市の大家族とネット社会という対比構造のように二極化することで、最終的に観客に届くであろう認識の複雑化を巧妙に避けている点も実に計算高い。

業ともいえる過剰な情報量を制御し、観客と共有できる作家の術とそれを支持し完成に導いた製作者チームの成果は、間違いなく本年度において総ての表現ジャンルを超えて、トップを走るレベルに達していると断言しよう。



©2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

マンガ部門大賞『ヴィンランド・サガ』 幸村 誠

ヴァイキングに父を殺され、復讐に燃える少年の冒険と成長の物語。

11世紀の北欧を舞台に、侵略、略奪、殺戮に彩られたヴァイキングの活動を、日本の読者に馴染みの薄い北欧諸国の歴史をからめて描いている。

多彩な登場人物の一人一人を、魅力的に描き分ける作者の力量が見事だ。血生臭い殺し合いの世界を描きながらも、人への愛と、命の重さを、十分に読者に伝えている。

後半から登場するデンマーク国王の子として生まれた第二王子の権力を巡る争いが、物語を更なる高みへと導き、壮大な歴史ドラマへと発展して行こうとしている。今後の展開に、目の離せない、久々の“王道を行く”マンガ作品と言える。



© 幸村誠 / 講談社

[第13回]文化庁メディア芸術祭 開催内容

「文化庁メディア芸術祭」は、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的として、平成9年度（1997年）より毎年開催。アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において創造性溢れる作品を顕彰するとともに、その創作活動を広く紹介しています。

■受賞作品展

アート、アニメ、映像、ゲーム、Web、マンガなど、世界54ヶ国・地域の2,592点の応募作品から選ばれた受賞作品と審査委員会推薦作品を合わせた約180点を紹介。

《アート部門》

55作品（インタラクティブアート、インスタレーション、映像、静止画（デジタルフォトを含む）、Webなど）

《エンターテインメント部門》

49作品（ゲーム、遊具、映像（VFX、CM、MVなど）、キャラクター、Webなど）

《アニメーション部門》

38作品（劇場公開、TV、OVA、短編アニメーションなど）

《マンガ部門》

39作品（ストーリーマンガ、コママンガ、Webマンガ、自主制作マンガなど）

■上映会

アニメーション、アート映像、ミュージックビデオ、CMなど、各部門から選ばれたさまざまな映像作品を上映します。劇場公開作品も全編上映します。

■シンポジウム&プレゼンテーション

《受賞者シンポジウム》今年度の各部門の受賞者と審査委員によるシンポジウム

《テーマシンポジウム》メディア芸術に関連するアーティスト、教育者、研究者らによるシンポジウム

《プレゼンテーション》出展アーティストらによるプレゼンテーションやパフォーマンス

■同時開催イベント（協賛事業）

(1) Media Art in the World

会期：2010年2月3日-14日 会場：国立新美術館

内容：海外のメディア芸術関連のフェスティバルを紹介

(2) 学生MVコラボレーション

会期：2010年2月3日-14日 会場：国立新美術館

内容：メディア芸術祭を題材にミュージックビデオを制作するワークショップ

(3) 学生CGコンテスト受賞作品展 [主催：CG-ARTS協会]

会期：2010年2月3日-14日 会場：国立新美術館

内容：学生最高峰のデジタル系コンテストの受賞作品展

(4) 先端技術ショーケース [主催：文部科学省・JST]

会期：2010年2月3日-14日 会場：国立新美術館

内容：表現のための技術や研究を発表する展示会

(5) サイバーアーツジャパン アルスエレクトロニカの30年 [主催：東京都現代美術館]

会期：2010年2月2日-3月22日 会場：東京都現代美術館

内容：アルスエレクトロニカの歴代日本人作家らによるメディアアートの特集展